

臨床研究に関する情報公開

「急性胆嚢炎治療における Tokyo ガイドライン(TG18)の妥当性の検証」へのご協力の
お願い

当院の研究責任者

外科 田端正己

他の研究機関および各施設の研究責任者

なし

研究の対象

2014年1月～松阪中央総合病院で急性胆嚢炎に対して胆嚢摘出術を受けられた方

研究目的・方法

急性胆道炎(急性胆嚢炎, 急性胆管炎)は、日常診療上よく遭遇しますが、早期診断・治療が遅れると重篤化し、敗血症や臓器不全で死亡することがあり、その取扱いが重要な救急疾患です。急性胆道炎診療の標準化を目的として、2005年9月に急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン日本語版第1版が、さらに2007年1月には国際版第1版(Tokyo Guidelines 2007, TG07)が発刊されました。2013年1月には日本語版と国際版共通の改訂版 Tokyo Guidelines 2013(TG13)が出版され、世界共通の重症度判定基準や治療法が示され、世界的に広く活用されるようになりました。その後、TG13に基づく大規模な臨床研究データの集積により、急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドラインは大幅な改訂が行われ、2018年10月、Tokyo Guidelines 2018(TG18)として刊行されました。そこで、当科で経験した過去の急性胆嚢炎をTG18に基づいて重症度分類し、その治療成績を検討することによって、実臨床におけるTG18の妥当性を検証することが本研究の目的です。

研究に用いる試料・情報の種類

検査所見やカルテ記載、病理組織所見等の診療情報

外部への試料・情報の提供

ありません

個人情報の取扱い

研究に使用する情報から個人を特定できるものは削除します。学会および論文発表において対象者を特定できる個人情報は一切使用しません。

研究資金源・利益相反

ありません

お問い合わせ先

0598-21-5252 田端正己